

令和8年度 第1回高浜市介護保険審議会

令和8年度 第1回高浜市地域包括支援センター等運営協議会
議事録

日時：令和8年7月30日（木）

13時30分～15時00分

場所：いきいき広場 いきいきホール

〔出席者〕

【委員】13名

野口 定久（会長）、岡部 純子（副会長）、加藤 保之、岩月 信子、島崎 幸子、
岸上 善徳、木村 紀幸、鯉江 伸悟、内藤 靖子、横山 英樹、柴田 信枝、林 三郎、
三浦 京子

【事務局】

竹内 正夫（福祉部長）、藤 克幸（介護障がいGL）、落合 千恵（同G主査）、多武 利康（同G主任）、岩崎 和也（共生推進GL）、野口 真樹（福祉まるごと相談GL）、山本 静江（同G副主幹）、福井 大地（同G主査）、西山 歩（同G保健師）、中川 幸紀（健康推進GL）、東 智美（同G副主幹）

1 開会

2 委員及び事務局紹介

（資料1に基づき紹介）

3 議事

(1) 会長及び副会長の選出並びに部会委員の指名

- ・会長選出：野口 定久委員
- ・副会長選出：岡部 純子委員
- ・会議録署名委員の指名：岸上 善徳委員
- ・苦情処理部会及び第三者評価部会の委員の指名：内藤靖子委員、林三郎委員、三浦京子委員

(2) 第10期介護保険事業計画・介護保険事業計画について

■第9期計画の評価と課題について【資料2】

■第10期介護保険事業計画の基本指針のポイント（案）について【資料3】

■高浜市の介護サービスの現状分析について【資料4】

（事務局より資料説明）

委員：32ページに認定率が低い要因の説明もあったが、全国、愛知県に比べ、高齢者世帯の中で単身世帯の比率は低く、同居世帯の比率は高い。いわゆる家族介護が多い点が挙げられる。喜んでいいのか、ちょっと複雑である。8050問題を含んでの認定率の低さと考えてしまう。それから認定率は、いわゆる所得階層の影響があるのかもしれないと考える。もし、どこかでそのような調査をやっていれば教えてほしい。

事務局：同居世帯が多いということは、ご指摘のように、8050問題やヤングケラーの現状が背景にあるかもしれない。把握しきれていない部分もあるが、高浜市の場合、例えば地域福祉計画の中で重層的支援という方法で、そういったところにも目を向けるようにしている。ご指摘のとおり認定率の低さは決して喜んでいいことではないと考える。同居世帯が多いから認定率が低いというのも一因ではあるが、その分、家族に負担がかかっているというのも事実なので、そういった現状も把握しなければならないと考える。そのほかにも、認定率が低い要因として、高齢者の就業率が高いこともあるし、健康自生地をはじめ「通いの場」への参加率が県や国と比べるとかなり高いことなども影響していると考えます。

委員からの質問にあった所得と認定率の関係についてデータがあるかどうか調べておく。

委員：5ページの認定率の推移をみると、全国と愛知県はともに右肩上がりになっているのに対し、高浜市は凸凹になっている要因は何か。

事務局：明確な要因は不明であり分析できていない状況である。どうしても分母が小さいため、ちょっとしたことが大きく影響してしまう。したがって、傾向については、凸凹をならした線でみてほしい。

会長：全国や愛知県の場合には母数が多いのであまり誤差がないが、市の場合は母数があまり大きくないので、その時の影響によってこのような差が出てくるものだと思う。

委員：ここでは外国人について触れていないが、人口比率で10パーセント以上を占め、若い世代が多く、子どものいる人たちが多く。また、収入もあり、稼いでいるが、介護保険料を支払っているのか。今後、特に2040年を目処とした時に、労働力人口となると考えられる。担い手として考えることができるのか。

事務局：まず1点目の質問については、外国人の方も介護保険料を支払っていただいている。日本人と全く同じ条件になる。外国人の方も将来、介護が必要となれば、介護サービスは受けることができる。そこは日本人、外国人関係なく制度上そうなっている。

もう1点の担い手については、今外国人の方の介護職に頼っているのが現状である。人手不足で、募集しても応募がない中で、外国人の方の労働力はとても貴重な存在になっている。

委員：多文化の関係の活動をやっているが、実感として感じるのは、外国人の方の若い世代が非常に多い、子どもが非常に多い。2040年前後というのは、その子どもたちも社会人になっていく。そういう意味では、制度についてなるべく早めに理解してもらうことが非常に重要であると思う。制度も十分理解して、お金も払うという意味では、2040年を見据え、外国人の方といかに共生していくかという部分を考えていただきたいと思う。

会長：日本の企業、それから福祉、介護の現場では外国籍の方を抜きには考えられない状況である。一方で介護職についても、特定技能というしほりを厳しくし、求める日本語レベルも高くするということで、介護の現場では外国の人たちが日本の介護現場を選択してくれないということにもなっている。

外国籍の人たちが、介護保険料は払ってはいるが、介護を受けるようになってきた時にはもう日本にはいないというような制度上の問題も出てきている。外国籍の人たちが日本を選択するのが難しくなっている。

介護保険を支える人材として、外国籍の人たちに日本で福祉介護職についてもらうことなどを保険者としてはどうするのか、あるいは介護現場としてはどのように考えていくかというところを、この介護保険事業計画においても「介護人材の確保」というところから非常に重要な要素になってくる。

事務局：介護人材の育成、確保が課題であることは認識している。事業者側からも、外国人の方の研修を開催するにあたって、1つの事業所では費用がかかるので、共同でやることができないかというようなところもご提案をいただいているので、国、県の補助金を使いながら研修を共同で開催するなど、事業者への支援を考えており、具体的に計画に入れることを検討していく。

会長：第10期計画の策定にあたって、介護を支える人材の確保等は重要なので議論をしていきたいと考えている。

■計画の骨子及び基本理念等について【資料5】

(事務局より資料説明)

会長：第10期計画の策定にあたり、委員の皆様からも、現在の高浜市の強み、弱みを考慮し検討していきたい。6ページの「施策の体系」を参考にしながら、意見を承りたい。

委員：

○自身が関わっていることに関係した意見となる。今、関わっている地域ケア会議に関しては、年々参加者の方が増えていて、内容もブラッシュアップされていて、いい方向で進ん

でいると思う。運営者や参加者の意識の高さを感じていて、多職種連携の場として、非常に有意義な場となっていると思う。

○一方で、参加職種にやや偏りがあり、より多くの職種の方が参加できるような働きかけも大切であると感じている。

○在宅の場合、テーマも多いが、在宅医療の需要が高まる中、高浜市で立ち上げている「えんjoyネット高浜」の活用も進んでおり、情報共有やケアにつながっていると感じている。

○ただし、グループによって、まだ十分活用できていないグループもあり、成功した活用事例とか、使い方の具体的な場面を提供できるような情報提供していけるといいと感じる。

委員：

○今後、期待しているのは、重層的支援体制整備事業の整備である。いい意味でも悪い意味でも、高浜市は狭い面積で人口も多くない、人の顔が見える、これも長所と言えば長所だが、短所のように感じる人もいると思う。人柄が良すぎるのではないかというような人も多い。

○そういうところも全部、重層的支援体制あるいは地域づくりに向けた支援というところの観点でも重要なことだと思う。

○重層的支援整備事業は他の自治体ではなかなかうまく進んでいないとも聞いている。

○高浜市では、属性を問わない相談支援とか、参加支援、地域づくりに向けた支援という3つの柱があるが、これまでに色々取り組んできたと思う。問題は、先ほどから、人的な話が出てきているが、組織であるから当然起こりうることだが、メンバーの入れ替わりがある中で、温度差が出てしまう。それは組織やグループなども同様だが、これまで築き上げてきたものをさらに発展させていくことが求められる。

○働き方改革などもあり大変だと思うが、そうした中でもぜひ重層的支援体制整備に前向きに取り組んでいただきたいと思う。

委員：

○高齢者関係では、高浜市は、老人クラブ、まちづくり協議会など地域の中で活躍できる場がたくさんあると感じている。

○全国シルバー人材センター事業協会が行った調査研究において、シルバー人材センターの会員は、一般の地域高齢者と比較してフレイルの発生リスクが34パーセント低かったという結果が報告されている。もちろん、シルバー人材センターに入会したからといって必ずフレイルを予防できるということではないが、就業を通じて外出する、人と関わる役割を持つということが結果として健康維持や介護予防につながる可能性があると感じている。

○高浜市においても、介護サービスだけではなく、就業やボランティア、地域活動など、高齢者が元気なうちから社会とつながる場を広げていくことが介護予防の観点からも重要であると思っている。

- また、会員と多く接して話をする中で、地域には様々な活動や支援がある一方、情報が届いていなかったり、参加するきっかけがなかったりする方がいると感じている。特に、団体に所属していない方、また介護サービスを利用していない方が、地域とつながるきっかけづくりが課題だと思っている。
- 総合事業に関しても、高齢者を、支援を受ける側としてではなく、地域を支える側として活躍していただくことが重要だと思っている。
- シルバー人材センターの会員も現在平均年齢が75.8歳だが、元気に就業されている方が多くいる。そうした方々が就業やボランティアなどを通じて地域の担い手となることは、本人の介護予防にもつながると感じている。

委員：

- 高浜はコンパクトな市なので、誰が誰かすぐにわかる。民生委員なので一人暮らしの人や包括支援センターを訪問する機会があるが、すぐに分かる人が来てくれる。大きいところだと「担当者がいません」とか言われるのかもしれないが、そういうことがない。
- 高浜市として横出しのサービス、第三者評価など、サービスの向上を目指すような独自の努力もしている。全体が限られている中で、そういう独自のことも実施しているというのはすごいと感じる。
- ただし、高浜は車がないと生活できない。今は車社会になってしまっている。75歳になった時に弱い方が多いのではないかと、足腰が弱る方が多いのではないかとと思う。だから、個人的にすごく努力をしていかないと、今の方たちよりも、介護度が急速に上がってしまうのではないかと心配している。
- 大きい施設などがある程度老朽化してきた時にどうするのか。お金の流れがよくわからないが、老朽化に対する対応は誰がどのようにするのか疑問である。
- 人材確保についても、力を入れていく必要があると感じている。

委員：

- サービス事業所なので、そちらに関することで強みと弱みについてお話しさせていただければと思う。居宅サービスにおいては、高浜市は横の繋がりがとても強いと感じている。他市も経験してきているが、事業所間の連携が取れるような仕組みというか、そういったマインドが根付いているというのが大きな強みになっていると思う。これは多分先人たちが築いてきた功績と思っているが、それを引き続き続けていけたらいいと考えているので、競い合うのではなく、お互いに地域を支えていくっていう形の考え方を持った人たちが事業所の中にはたくさんいると認識いただければ良いと思っている。
- 小規模な事業所もたくさんあり、やはり資金繰りがなかなか難しく、ICT化など高額な費用がかかる取組はなかなか難しい状況なので、補助金等の関係も視野に入れて検討していただきたいと思っている。

委員（当日欠席委員からのご意見）：

- 高浜市は行政と市民・事業者との距離が近く、とても良いと感じている。また、まち協の存在が大きく、住民同士の連携がとれている。
- 高浜市に限った話ではないが、ボランティアはじめ地域の担い手は、いずれは支援される側になる。若い世代への繋ぎが課題と感じる。
- 介護人材の負担軽減は重要。ICTなどの導入により、人材の安定化を行うべき。

会長：大変重要なお意見をいただきましたので、事務局は意見を取りまとめて、第10期計画のところに反映できるように繋げていっていただきたいと思います。

(3) 令和7年度高浜市地域包括支援センター事業報告について【資料6】

（事務局より資料説明）

（特に意見なし）

5 報告

(1) 高浜市内の介護保険事業者の開設状況について【資料7】

（事務局より資料説明）

6 その他

○次回：令和8年10月29日（木）午後1時半から、いきいきホールにて

○ホコタッチの運用について事務局より説明（花王株式会社がホコタッチのサービス提供を本年末で終了する旨と、高浜市においては令和9年3月31日まで運用可能である旨）

7 閉会

以 上